

令和5年度 第3回 名西高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年2月26日(月)
午前9時から午前11時まで

2 場 所 名西高等学校 会議室

3 参加者

河崎会長、西岡委員、森根委員、小林委員、久米委員、安達委員、喜多委員、向井副会長、平田教頭、前田教頭、竹田教頭、新居総務課長、向井(境)芸術科長、村山生徒指導課長、横田進路指導課長、佐藤教務課長

4 内 容

(1) 会長挨拶

(2) 学校長挨拶

(3) 協議

ア 本年度の重点取組について

向井学校長より次の項目について説明、承認された。

① 「普通科の魅力化」について

◇ 「強み」を活かし、「弱み」を「強み」に

- ・小規模故に可能な、きめ細かな指導を通じ、団結力のある教員集団の力を結集し、授業や教育活動全体で主体性を育てる教育の実践
- ・目指すべき生徒像として、「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成」

◇ 「名高スピリット2023」の策定

- ・個人で考え、クラスで考え、代議委員会と生徒会で考え、生徒総会に諮り決定したもの
- ・創立100周年式典で発表

◇ 「生徒心得」の見直し

- ・名高生のあるべき姿についての意見集約、先生方との意見交換会

◇ ルーブリック集の活用

- ・評価者と学習者が事前に「何が評価されるのか」「達成すべきレベルはどこか」という認識をすり合わせることができる。

◇ 授業改善に向けた教員研修の実施

- ・授業参観週間の実施

- ・ 2 学期は「学びの学期」各教科ごとにチームで 指導案を考え公開授業を実施。
 - ・ 他教科から学ぶ
 - ・ 3 観点の評価（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」）について
 - ・ 指導と評価の一体化
- ② 「芸術科の魅力発信」について
- ◇芸術科の応募状況
 - ・ 育成型選抜での定員の充足
 - ◇第 3 回名高フェスティバル(R6.2.16~18)
 - ・ 大ホールでの音楽演奏会、展示室での美術・書道展
 - ・ 音楽演奏会第 4 部では、住友紀人氏による名西高校創立 1 0 0 周年記念演奏
- ③ 「地域連携について」
- ◇名高パトロール隊
 - ・ 街頭犯罪抑止の目的で発足した自主防犯ボランティア（21年目）
 - ・ 学校周辺のランニングをかねた防犯パトロール
 - ・ 通学路の清掃活動
 - ◇サイバーセキュリティー教室（石井中R5.11.24・高浦中R5.12.11）
 - ・ 生徒が地元中学校で出前授業
 - ・ 生徒自らが企画・運営
 - ◇交通安全幟旗制作・藤もちパッケージ揮毫
 - ・ 美術コース生徒が図案を作成
 - ・ 書道コースが「ぶぢかえる」を揮毫
 - ・ 名西警察署と連携した交通安全キャンペーン（R5.12.13）
 - ◇総合的な探究の時間「藤波タイム」
 - ・ 地域の講師による講演・指導助言
 - ◇高川原小学校 プール壁画制作（R6.1.17）
 - ・ 美術コース生徒が小学生とともに活動
 - ◇高川原公民館書道教室（R5.7.26）
 - ・ 書道コース生徒が児童生徒に指導
 - ◇書道コース石井町そのだ歯科での展示
 - ・ Instagramでも紹介
 - ◇「名西高校 English Camp」初開催（R5.8.29）
 - ・ 県内ALTとの異文化交流

- ・石井中生 2 名参加
- ◇「名高こども食堂」初開催 (R5.12.9)
 - ・本校生及び地域の児童生徒 31 名が参加
- ◇姉妹校 台湾 羅東高級中学との交流
 - ・オンラインでの交流、メッセージカード交換
 - ・3月13日～16日の3泊4日で教員2名、生徒13名が初訪問
- ④ 「定時制の取組」
 - ◇「社会的自立」を目指して様々な活動を推進
 - ◇体験的学びや協働的学びの推進
 - ・エシカル教育「藍染め」では、種植え、植え替え、収穫、絵付け、染色、作品完成の一連のプロセスを体験
 - ・「作物栽培～調理実習」では、ジャガイモ、サツマイモ、タマネギの栽培、干し柿づくりと調理実習を行う。
 - ◇各種大会・コンテスト等の成果
 - ・第75回定時制通信制生徒生活体験発表大会 優秀賞
 - ・高校生ビッグデータ活用コンテスト (徳島県教委主催) 優秀賞
 - ・中学生・高校生データサイエンスコンテスト2023 (神戸大学主催)
 - ・SPOGOMIワールドカップ2023 徳島STAGE 第3位
 - ◇授業・学校行事等の取組
 - ・ALTとのTeam Teaching 授業 (週1)
 - ・総合的な探究の時間 調べ学習発表会
 - ・金融教育講演会
 - ・卒業生による進路講演会
 - ・エシカル教育講演会
 - ・地方創生 & RESAS 出前講座
- ⑤ 100周年記念事業
 - ◇生徒たちが主体となって活躍

イ 意見交換

【学校からの報告に対する意見交換】

- 自分自身も報道等を通じて知る機会が多く、名西高校の変化について、肌で感じる1年であった。学校長からみて、生徒・教職員にはどのような変化があったか。
- ▷教職員については、どんな生徒を育成するのか、目指すところをイメージしやすくなったのではと感じる。授業、部活動、特別活動など、

あらゆる機会が生徒に自分で考え、発信させる機会をつくる、また、誰かの意見ではなく自分の意見を発信するということが浸透しているのではないか。生徒たちも、自分たちがやっていかなくてはならない、言われたことだけをするのではだめだと考えるようになってきたのではないかと感じる。

- 定期的に学校に入らせていただき、変化を肌で感じている。生徒が自信をもって発言しているという感触を得ている。その中でも、「校則見直し」の仕組みづくりが特に良かった。組織の中で、チームで考えたことを上げていって実現するとう経験ができたことが素晴らしい。それと、先生方が、「引っ張っていく」のではなく「応援する」という体制にすごくなっていて感動した。「こども食堂」でも、子供たちが考えて、子供たちがやっているというのをすごく感じた。
- 子供たちが社会に出たときを考えると、より年代の高い高齢の方との接点も重要であると考えますが、どのように考えているか。
 - ▷コロナ禍で出て行くことができなかつたところへも、ようやく出て行くことができるようになってきた。状況をみながら、今後、そういった活動を充実させていきたいと考えている。
- 生徒が地域へ出かけていって、学校で学んだことを、自分の中でおさめるのではなく、地域などいろんなところでいろんな人に発信していくという取組が、生徒を成長させているのではないかと感じる。高川原小学校のメモリアルウォール制作では、高校生が小学生に関わる中、得意・不得意の個人差もある中、小学生に積極的に語りかけていく生徒に、他の生徒が影響を受けながら、全体としての交流が進んでいくすがたをみることができた。このような外へ出ていった活動の後の振り返りの中で、印象的なことや、成長を感じることがあれば教えていただきたい。
 - ▷10年前の生徒と今の生徒の違いとして感じることは、さまざまな活動を通して、だんだん一人一人が自信をもってきているということ。かつては、素直でいい子たちだが、表に出ることを恥ずかしがっていた面もあった。人前でしゃべったり歌ったり演奏したりという経験を重ねることで、だんだん自信をもってきて、一つずつやり終えることで達成感をもってきている、その積み重ねをすごく感じている。
 - ▷書道でも、1年生からだんだんと学年を追うごとに自信をつけてきているというのを感じる。自信がついたことは生徒自身もうれしく感じているようで、中学校の先生や家族に報告に行くようになってきたり、また、そこで褒められたりたりする中で、もっと頑張ろうという気持ち

にもなっているようだ。入ってきてから伸びる生徒の「成長」が生徒の自信のすべての源であると感じる。

- ▷「校則見直し」では、教員の側がとりあえずやってみようということからアンケートをとるところからスタートしたが、その後の動きが、素晴らしかった。こちらがヒントを与えるだけで、生徒たちがものすごく動き出して、生徒会役員を中心に意見の出し合いをしていた。「メイクはなぜだめなのか」について「メイクをされていて地域の人に好かれるわけがない。地域の人から好かれないような学校はだめだ」という意見が出たときには感動した。「ああ、こういう意見をもっているんだな」と改めて思ったし、いろんなところで取材を受けている生徒のようすをみて成長を感じた。また、「サイバーセキュリティ教室」においては、担当教員が驚くほど生徒たちが自分で調べて準備をした。我々の知らないような情報も集めて、地元中学校での出張講義をすることができた。年度当初の、「自分たちで考えて・・・」という言葉、自分なりにかみ砕いて実行している生徒が増えたのではないか。「校則見直し」の生徒総会でも本当に真剣に生徒たちが聴いていた。生徒たちの動きで学校が変わっていていることを実感した。
- 本校でも「サイバーセキュリティ教室」を実施していただいたが、本当に高校生の対応が素晴らしくて、子供たちの感想にも、質問に的確に答えてくれることに感心していたようすが書かれていた。そんな「高校生こんなにすごいんだ」というのもあって、今年の進学者の希望も増えているようである。魅力が実際に伝わると、この高校に行きたいという希望者も増えるのではないか。地元の中学生が行きたい高校として、普通科の魅力を積極的に発信していただきたい。
- 積極的に魅力を発信していただいたこともあり、今年は入学したいという生徒も増えている。大学進学に向けて、少人数を生かした取組などがあれば教えていただきたい。県内の芸術へのニーズを掘り起こす意味でも、名西高校が芸術の魅力を県全体に発信していくことも重要であると考えらるがどうか。
- ▷弱みであり強みでもある「少人数」を、本校では強みであるにとらえ、取り組んでいる。一人一人に応じた個別指導が充実しており、一人一人に役割が与えられ、大切にしてもらえるとこの点をアピールしていきたい。国公立大学進学から就職生まで幅広い進路があるが、それぞれに応じ、一人一人と向き合って時間をかけて指導を行っている。
- ▷本校芸術科は、人材育成において重要な役割を担っている。トップア

ーチストの育成はもちろんだが、専門分野にすすまない生徒もいる中で、高校時代に芸術活動に真摯に取り組む中での人間的成長が、卒業後の豊かな人生につながっていくはずである。本校の芸術科の魅力発信は、そういった意味でも重要であると考えている。

- いろいろな情報が入ってくる時代で、生徒個人も自分で情報収集している中で、親の言っていることが伝わりにくいこともある。広い視野をもった先生方が「こういう考え方もあるのでは」と家族以外の大人の貴重な意見を子供に伝えてくれることは大切だと思う。普通科の魅力化については、自分自身の高校時代を振り返ってみたとき、文化祭で仮装して練り歩いたことが思い出に残っている。例えば、ハロウィンは、ゴミがたくさん出ることによって批判され、マイナスのイメージもあるが、こんなときに「ハロウィンに仮装してゴミをひろうボランティアをする」などのような、面白い取組をすることも魅力化につながるのではないかと思った。
- 100周年記念式典では、生徒たちが全面的に前にでて主体的に取り組んでいるようすが印象的だった。
- 生徒の側から、学習面において、こういうことをしてほしいというような希望・要望のようなものはあったか。
 - ▷資格取得・コンテストの応募について、学校から案内をしているが、生徒からの要望はなかった。今後も引き続き、積極的な応募をはたらしかけたい。

【学校評価総括表についての意見交換】

- 名西高校へ通う生徒の交通手段について教えていただきたい。それによって、交通事故等への対策を分析することもできるのではないか。
 - ▷通学方法は、普通科143名のうち、自転車が80名、残りが徒歩、JR、バスである。芸術科では、124名のうち、自転車が30名、JRが83名となっている。普通科で主となる自転車、芸術科で主となるJR・徒歩について、それぞれの安全指導について、自分の身を守るための、より良い形で意識付けができるよう、図っていきたいと考えている。
- 遅刻の理由はどのようなものか。
 - ▷うっかり寝坊したというものと、体調等の理由により学校への登校が難しい中、頑張っているというものが、半々である。特定の生徒が繰り返し遅刻している面もあり、我々も状況を見守りながら、規則正しい生活を促している状況である。大半の生徒は、遅刻もほとんどなく、定刻に登校し学校生活を送っている。

- 人権についてのアンケート調査について、どのようなものか、また、特別指導はアンケート結果から判明したことなのか教えていただきたい。
 - ▷各自の取組状況、関心のある人権課題など、人権教育に関するもの、いじめについて見たことがあるか、困っていることはあるか、といった内容のものである。特別指導については、アンケート結果から判明したものではない。
- 入試問題研究部について、今年度からの取組であるが、是非このような少人数だからできる取組を継続していただきたい。また、卒業後、いずれは就職することになるが、名西高校でインターンシップの取組状況について教えていただきたい。
 - ▷インターンシップについては、本校は取り組んでいない状況であるが、今後検討していきたい。
- 当社も、他校や大学等からの受け入れをしているが、地域を知るという観点から、意義あるきっかけとなると感じるので、地域企業として、名西高校が実施するのであれば、協力したいと考えているので御検討いただきたい。
- 学生時代は、世の中にどんな仕事があるのかという知識がないのではないか。徳島県内にどんな企業があって、どんな仕事があるのかということに触れるために、企業等の経営者による説明会のようなものを実施してはどうだろうか。「同友会」などの組織などを活用して、そのような機会を検討していただきたい。
- 書道作品が大変素晴らしく、個人的に欲しいと思うほどである。作品の販売などはどうか。本校で、名西高校書道コースに書いていただいたものを飾っているが大変素晴らしかった。
 - ▷文化祭で販売することはあるが、その他はない。貴重な御意見をいただいたので、生徒たちの活動が地域貢献につながるならば検討したい。さまざまな形でコラボして商品化したものはある。コロナ禍で、交流が止まってしまったが、いろんな活動を再開していきたい。
- 販売しても、売上金をチャリティとして寄付にまわすなども良いのでは。
 - ▷石井町の「二十歳の集い」の立て看板は、書道コースで揮毫している。石井警察署の「絆」という文字を揮毫したことがあるとも聞いている。選抜高校野球の学校名を本校書道コースの3名が揮毫したことも毎日新聞の報道のとおりである。また、今年度、音楽コースが中学校の文化祭に演奏に行くこともできた。今回、いろんなヒントをいただいたので、検討していきたい。

- 「二十歳の集い」は1時間半くらいであるが、その後、立て看板の前で記念写真をとるといのがずっと昼過ぎまで続いている。それだけ二十歳の人にとっては、一生の記念に残るメモリアルなイベントとなっている。そういうことにも、支援をいただいているという点も知っていただきたい。
- 吉野川市のイベントで、昨年、エシカルのチラシなどを会場で配布し、PRするというボランティアに名西高校の男子生徒2名が参加してくれた。当日はすごい雨という状況であったが、ウクライナの募金もすることにもなり、どう配ればよいか、募金をどのように実施するかなど、2人で自分たちで考えて取り組み、募金もしっかり集めることができ、それをきっかけに、今年も声をかけさせていただき、司会のお手伝いとして参加してくれる予定になっている。このように、実績を積むことで、声もかかり、生徒たちにも自信になる機会が増えていると感じている。
- 定時制の取組について、学年を越えてのコミュニケーションの機会があることや、ホームページでみる活動のようすなどは、豪華でいい感じであるという印象を受ける。入学してから、自己肯定感が高まっていくようすが感じられたが、卒業から進路決定のようすがどのようなになっているのか、また、卒業した生徒と現役生徒の交流があるのか、を教えてください。
- ▷就職・進学について、マッチングフェアや企業との話の中で徐々にきめていっている。卒業した生徒と現役生徒の交流については、卒業後に進路担当が連絡し、4、5人程度来てもらって、在校生に話してもらう機会を設けている。

ウ その他
特になし